

金子征史教授定年退職記念号に寄せて

OHNO, Tatsuji / 大野, 達司

(出版者 / Publisher)

法学志林協会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法学志林 / Review of law and political sciences

(巻 / Volume)

113

(号 / Number)

3

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

2

(発行年 / Year)

2016-03-09

金子征史教授定年退職記念号に寄せて

法学部長 大野達司

金子征史先生は、昨年度めでたく古希を迎えられ、本法学部を定年退職された。先生は一九四四年に東京で出生され、一九六七年本法学部を卒業、大学院社会科学研究所私法学専攻に進まれた。一九七三年より立正大学経営学部専任講師、一九七六年より本法学部助教授に着任され、一九八一年より教授に昇任、二〇一五年に定年退職された。本学に在職中は、一九八八年に法学部長をつとめられ、一九九九年より二〇〇二年まで本学常務理事の重責を果たされた。学外でも多くの要職につかれ、学会関係では日本労働法学会理事、一九八六年と一九九七年に同事務局長をつとめられたほか、日本教育法学会理事、民主主義科学者協会法律部会理事および監事に選任されている。社会活動でも、大学基準協会での様々な委員、二〇〇五年に厚生労働省東京地方労働審議会労働災害防止部会委員長、二〇一一年に東京都労政事業評価委員会委員長などを歴任された。またご自身もスポーツマンだが、スポーツをはじめとする学生活動にも強い関心と愛情を抱かれ、ラグビー部部长代理、スケート部部长、柔道部部长、さらにアカデミー合唱団部長、そして法律相談部指導教授などを長くつとめられた。

先生のご業績は、本号掲載の「業績目録」からわかるように、ご専門の労働法の各分野にわたっている。労働組合の研究から出発され、賃金や退職金、労働契約、労働時間といった問題から、整理解雇や男女雇用機会均等法、外国人労働者問題など、時代を反映した対象についても数多くの論文を執筆されている。さらに、教育法分野でも、教職

員の権利問題を中心にして、研究を進められた。先生のご研究はつねに現実、もしくは現場を見据えた、実践的なものである。さまざまな実務でのご経験も、こうしたところに反映されているのではないかと、門外漢ながら推測している。

先生のお人柄は、温厚ながら筋の通ったもので、教員間の相互理解を尊重された。私自身の想い出でも、先生は丁度常務理事職に合ったご多忙な時期だったにもかかわらず、たびたび着任直後から気さくに声をかけて下さり、法政で研究生生活を進める上での様々なアドヴァイスを頂戴した。理事ご退任後復帰された教授会でも、ご経験に裏づけられた、バランスのとれた発言で全体の方向をリードして下さった。

最終講義、ご定年の祝賀パーティーにも、会場から溢れんばかりの方々に参加されたが、それは金子先生が多方面に多大な貢献をされたことの証であるとともに、先生を慕う人々の多いことを改めて実感した。

本学部にとり、金子先生が去られたことは大きな痛手だが、先生は今後もこれまでのご活動を、ゆったりとした時間の中で継続されると思う。ますますのご発展を心よりお祈りしたい。法学部一同よりの感謝とともに、先生には、これからも先輩として変わらずご指導いただけるのを願っている。